

平成24年度「第2回仁淀川清流保全推進協議会」における委員の主な発言について

日時 平成25年1月17日(木) 13:30~15:30

場所 いの町 かんぼの宿 伊野 1階会議室

■議題

1. 仁淀川一斉清掃の評価について

- ・事務局より第2回仁淀川一斉清掃の実績について説明。
- ・高知市/土佐市エリアの参加者数については、受付を通った数として197名が参加となっているが、前年度と比べても決して参加者は減っていない印象を持っている。当日は開始時間直前に多くの人が押し寄せ、受付が大変混雑したこともあって受付を通らずに参加した人が多くいた。
- ・清掃活動と呼びかけて人に集まってもらい、仁淀川を考えることの契機としてやっているのだから、次にどういう手を打つかが課題。
- ・受付がスムーズにできる体制の確保が課題。毎年同じことをやってもいけない。さらなる清流保全活動をみんなで考えたい。
- ・佐川会場でパックテストを実施しているが、啓発を目的として行うのであれば、子どもたちが参加してくれるような仕掛けがあるといい。清掃活動への参加は大人、高齢者が多いイメージがあるが、参加者層の若返りを図るためにも、パックテストなどを楽しくやりながら水質保全の啓発に役立つような仕掛けを来年度以降は考えるといいのでは。
- ・子どもが楽しめることをやって参加したくなれば、親の世代も参加する。学校への呼びかけも考えたい。
- ・波川会場でも参加者が多かった。今後は、部会で日高村から意見が出たように清掃の会場を増やすことも考えていかなければならない。
- ・河川管理の立場で、葦を刈ることの大変さは実感する。昔はこれほど葦はなかったように思うが、今は支流も谷筋も葦でいっぱい。
- ・葦対策を20年ほど試行してきたが、この7年くらいでほぼ実証できてきたように考えている。今年、越知土木が佐川町の中野川で実験的に200mほどの工事を行う予定であり、これで刈らなくてもいいようになればいいが。

2. 仁淀川シンポジウムについて

- ・事務局より佐川町桜座で開催する第2回仁淀川シンポジウムについて説明。
- ・佐川町は流域で唯一本流に接していないが、シンポジウムの会場となれてよかった。

- ・過日、いの法人会でも黒笹氏の講演を聞いたが、素晴らしい内容だった。「仁淀川で自由に遊べる場所があれば」という黒笹氏の意見もあって、漁協では子どもたちを川へ呼ぶための企画を考えている。金突きやチャンなどを自由にできる場所をつくることをぜひ実現して、子どもたちを迎えたい。昨年、奇跡の清流として取り上げられた仁淀川にとって、今年は勝負の年であると、黒笹氏にも言われた。

- ・チャンや金突きなどは最近では学校でも禁止になっているのではないだろうか。

- ・危険性もあり、漁協としても禁止してきた。やるとなれば、危険性やマナーも教えたいと考えている。事故が起これば何も残らないので、現在検討しているところだ。候補地に、ある程度魚がいて、危険でないところを選びたい。漁協では箱見の貸出しなどを考えており、自由に来てもらえるような場所にしたい。今後、関係機関にも相談してつめていく。

- ・シンポジウムをきっかけに、仁淀川のいいところに地元が気付くことにつながればいいと思う。会場とのやりとりも交える予定であり、今後の参考にしていきたい。子どもも川も財産であり、われわれの活動を通じて守っていきたい。

- ・お宝探偵団の国際水切り大会も今年が10回目の節目の年であり、大手企業の協力も得て大々的にやりたいと思っている。また、4/21の観光びらきには黒笹氏にも参加してもらい、例年以上に盛り上げていく予定である。

3 来年度のスケジュールについて

- ・事務局より来年度のスケジュールについて説明。

- ・全体会を年1回とすることについて、予算審議等の関係で支障はないか？2月にシンポジウムがあるとして、7月の1回のみだと間隔が空きすぎる。シンポジウムに向けた意見集約や情報共有が不足するのではないか？こういう会で関係者みんながシンポジウムのことを頭に入れて臨む、人集めもやっていく、ということでやっていこうということ。

- ・相生川の浄化施設は2年前に完成したが、現実には全量浄化しきれてはおらず、先日開通した西バイパスの一部開通式の際にも橋の上から見る合流点の様子を見た市民からの意見も聞こえてきている現状である。せっかくの仁淀ブルー、奇跡の清流、水質日本一の称号を宝にしていこうとしているなかであって、あの状態が残されることはイメージダウンであり、ひいては高知県の損失になるだろう。一日も早い解決をお願いしたい。

- ・おっしゃることはよく理解するが、浄化施設については現在モニタリング中であり、その結果を改めて関係者が集まって議論していくこととしたい。

- ・相生川へは製紙メーカー6社が排水しているが、いずれも県の水質の基準はクリアしており、さらに各社ともSS値が低くなるように努力をしているにも関わらず、白濁するような状態が起こっている。6社のうち1社では昨年に排水の設備を新しくするなど、各社ともSS10以下を目指して努力をしている。業界としても努力をしていることをご理解いただきたい。

4 その他

- ・高知食糧㈱による高知県清流保全パートナーズ協定による寄付の実績について、四国コカコーラによる仁淀川流域でのCSR活動について、全国一級河川水質現況調査の平成23年結果について、それぞれ報告。
- ・全国一級河川の水質現況調査の結果については、昨年度のものと比較してBODが0.1あがって14位となっている。今後もBOD0.5~0.6で推移できるよう、清流を保全していければと考える。
- ・広域観光の取組みで、県のおもてなし課の事業で4月のエリアキャンペーンに向けて流域清掃ボランティアの体制づくりに着手した。併せて、川岸にあるビニール袋を取り除く「木にかかる530プロジェクト」も3月末には始動させ、5月30日には作業をしたいと予定している。
- ・21年度から続く黒森山の植樹事業に、今年度は500人を超える多くの方々からの募金をいただいた。流域の人たちの手で山を守り、仁淀川を守る活動として、漁協としてもこれからも旗を振っていきたいので、ご協力をお願いとお礼を申し上げる。